

「デジタルのリアル」

- 講演者: 山上 健 氏(山上建築設計)
- 参加者数: 会場9名+オンライン8名 計17名
- 開催日: 2022年 10月 7日

前回の会員研修会 Study Session1に続き「まちを見つめる建築家」を共通テーマとして、今回は山上健氏をお招きして「デジタルのリアル」についてのご講演をいただきました。

まず驚いたのが資料が全てデジタル化されており配布されたA4用紙には4種類の表題と4種類のQRコードが印刷されたもの1枚であり、スマートフォン等で各自が読み取る方式であった。リモートにて参加される方についてはその場でチャット機能を使いURLを送り資料を取得していただいていた。これまで先に参加者へ資料を送っていた手間や印刷していた手間がなくなる事で時間や紙の無駄を減らせ、これからの時代の流れなのかも感じられた。



ご自身が使われているBIMソフトの紹介の後、設計業務以外の仕事に関わっている事としてBIMソフトの使用に関するコンサルタントやアドバイザーとして勉強会などを開催しデジタルの世界を広めていく事にも熱心に取り組まれている

初めにDX(デジタルトランスフォーメーション)についての説明をして頂きました。DXとは企業がビックデータなどのデータとAIやIoTを始めとするデジタル技術を活用して、業務プロセスを改善してだけでなく、製品やサービス、ビジネスモデルそのものを革新するとともに、組織、企業文化、風土をも改革し競争上の優位性を確立すること。

これまでIT化と進められていた事に社外



関係者(顧客や取引先)も含めて企業成長を目指すものであるようだ。

そんな中でも建築設計事務所にとって身近なデジタルがBIMではないかとの事。2023年から公共工事を原則BIM化に向けて国土交通省も段階的に適用を拡大してきている。

ここから、山上氏がBIMを使って実際にかかわってきた仕事をお話いただいた。コンクールやコンペなどを共同で企画し打ち合わせでは一度も会わずに完成させたとの事。BIMを使う事で図面だけでは難しかったヴィジョンが3Dモデルがある事で細かな詳細の打ち合わせも可能であったようでした。遠方の建築士の設計を手伝った時には、BIMについてのコンサルティングも同時に行いデジタルを活用する事で新しいやり方も増えたとの事です。



ご自身の設計については、まず傾斜地の二世帯住宅については3Dモデルを作成する事で複雑な事が考えやすくなり設計の幅は広がったようです。見せて頂いた3Dモデルでは予定建築物の窓から見える近隣建物の状況だけではなく、隣地の建物の窓から見える予定建築物の見え方も確認出来た。次に厨房部分の新築工事を行ったときには厨房機器一つ一つを3Dモデル化する事で必要な給排水、ガス、電気の情報や寸法の情報を個々の厨房機器に持たせることが出来る為、図面については器具表の数値を変更するだけで反映される事が容易である説明をされた。

私が設計の仕事をはじめた頃はドラフターが主流でありまだCADもあまり普及していない時で、その後専用CADや汎用CADが一般的に使用されるようになった頃に独立した為最低限のデジタルのみでこれまで仕事をしてきました。今回のお話を聴講した事で今後少しでも勉強していく必要があると感じる事が出来ました。

相原 宏康 (JIA三重)

Hiro*設計室

